

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第6回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 諮問事項（公開）

・新市建設計画の変更について

(2) 自主的審議事項（公開）

・津有区の特長を生かした地域活性化策について

3 開催日時

令和4年9月26日（月）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：大滝英夫、千代金治、相馬祐一、中島 功、藤本孝昭（会長）、古川勝夫
古川 仁（欠席3名）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

- ・会議録の確認者：相馬委員

次第2 議題「(1) 諮問事項」の「新市建設計画の変更について」に入る。

事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料1、ほか資料に基づき説明

【藤本会長】

今ほどの説明について、質問を求める。

【中島委員】

期間を延長するという事は、今ほどの説明で理解した。よいのではないかと思う。

人口の見通しについて、せっかく津有区で説明するのであれば、津有区の人口がどのように減っていて、例えば、大島区であれば急速に減っているとか、直江津区は大幅に増えているとか、上越市全体ではこのように減っているというように、細かく説明しなくてもよいのだが、そんなことが気になった。

【小林センター長】

今回、直近の国勢調査の結果が出たので、それをこのタイミングで新しいデータに載せ替えたというだけの作業である。

確かに津有区で説明するのであれば、そういった細かい資料を見て分析等をすればよいのだが、それはまた別の機会としたい。今回の国に出す資料とは別に配布させていただくこともあると思う。調査が新しくなったため、資料を新しく付け替えたというだけの話である。

【藤本会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

では中身の審議に入る。

中身に関わるといっても、なかなか分かりにくいと思う。要は、新市建設計画の変更によって、津有区の住民生活に支障があるか否かについての諮問であるため、それに対して「支障あり」「支障なし」と答申することが自分たちの責務だと思っている。

そういう視点で審議をしたいと思うのだがよいか。

(よしの声)

では、「津有区の住民生活に支障があるか」について審議する。

意見のある委員の発言を求める。

(発言なし)

期間が延長されることで「人口がどう変わるのか」とあるが、これはあくまでも上越市の概要についての説明事項の中の「人口の推移について」の部分であるため、生活に直結はしない。要は合併特例債がもらえる期間が増えるということで、期間を延長することに対して、津有区として支障があるか否かということだと思う。

【中島委員】

特に支障はないと思う。

【藤本会長】

採決を取る。

本議題について、「津有区の住民生活に支障なし」としてよいか。

(全員挙手)

また、附帯意見もなしとしてよいか。

(よしの声)

以上で次第2 議題「(1) 諮問事項」の「新市建設計画の変更について」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

・資料に基づき、今後の進め方を提案

【藤本会長】

今ほどの説明について、質問を求める。

【中島委員】

地域へのアンケートについてである。

町内会長との意見交換会の前までにまとめることができれば、町内会長へアンケート結果を報告する手段としてはそれが1番よいと思っている。紙ベースになると思うが、各町内会へ何らかのかたちでアンケートの結果を報告しなければいけないと思う。

それが時間的に間に合うのかということもあるが、できることであれば、間に合わせたほうが、町内会長との意見交換会の中でも、いろいろと見えてくるものがあるのかと思っている。

【藤本会長】

今ほどの発言は質問というより、意見だと思う。

別紙1の計画では、まず、町内会長に地区アンケートの実施に了承していただき、お願いをするという意味・内容だと思う。

今の発言は、町内会長との意見交換会の時までにはアンケートが終わっており、その結果を提示してはどうか、という意見だと思う。

別紙1に記載されている方法とは別の方法の提案の意見という受け止めでよいか。

【中島委員】

そうである。

【古川 勝夫委員】

町内会長との意見交換会の前に各町内でアンケートを実施してもらったほうがよいと思う。たたき台のようなものができていなければ、町内会長も困ると思う。

自分自身も町内会長を務めているのだが、集まってほしいと言われて、ただ投げるだけなのか、ということになると思う。

それであれば、町内会長との意見交換会の前にアンケート用紙を配布してはどうか。各町内会長は大変だと思うが、そのほうが説得力はあると思う。

意見交換会ではそういう方向で話を持って行ったほうが、町内会長である自分としてはよいと思う。多分、他の町内会長も同様だと思う。

ただ投げやりにポンと投げ出されて「話してほしい」と言われる前に、アンケート結果から「こういう意見もある」というかたちで持っていったほうが、自分はよいと思う。

【藤本会長】

2人の委員より、町内会長との意見交換会の際に、地区アンケートの結果が出ており、津有区の住民がどのような考えを持っているかという傾向を持った上で議論すれば、より具体的な話ができるのではないかという提案があった。

質問ではなく、今後の進め方の内容に入っているが、このまま進めたいと思う。

【千代委員】

町内会長に出すのも分かるが、そうすると地域協議会委員は町内会長との意見交換会の時でなければ、アンケートの結果に目を通せないということになるのか。

アンケート結果を配布するのはよいが、委員もその内容が事前に把握できていなければ、両者が集まった時に話が見えていないこともあるのではないかと危惧する。

【藤本会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

手順の話としては、あくまでも 11 月頃に行う場合の実施計画ということである。

今ほどの中島委員と古川委員の意見を生かすとなると、11 月の実施はかなり厳しい。

いずれにしても、各町内会長に「このようなアンケートを行うため、お願いします」ということを、まずはきちんと示さなければならない。

一方的というわけにはいかないため、一応、了解を得た上で行わなければならない。

そしてそれを集約し、今ほど千代委員の発言にもあったように、少なくとも我々委員は「どういう傾向があるのか」ということを事前に承知した上で、それを町内会長に投げかけるという手順が必要だと思う。

そうすると、方法論だけではなく、実施時期をもっと後ろにしなければいけない。

ただし、今回アンケートを実施する意味は何かというと、次期地域協議会委員への置き土産というか、次の自主的審議すべき課題を探ることと、そして市からの宿題である、今後の方向性という答えを出すための材料を得ることが目的である。それにはまだ時間があるため、少し繰り延べてもよいと思っている。

もう 1 つの側面として、ただアンケートの話だけではなく、今取り組んでいるパンフレットをこれからどう活用してもらうのかという議論もしなければいけない。

その折衷する時期を見計らわなければいけないということが 1 つの課題になる。

実際、パンフレットの作成委員会は来年度から始まるわけであるため、町内会長との意見交換が少し遅くなっても、意見は十分反映できる。それであれば焦って 11 月に意見交換会を行う必要もない。

【千代委員】

同様に、学校とのワークショップについてもスケジュールが厳しいような気がする。

例えば、学校も来てもらうのか、それとも各学校に伺うのか、学校の状況もあると思う。その辺のスケジュール的な問題はどうか。

【藤本会長】

町内会長と学校の話は別に考えなければいけない。

なぜかというと、学校の場合、少なくとも 2 学期中に行わなければ、3 学期には受け入れてくれないと思う。3 学期はあっていないようなものであるため、そこへ地域協議会が「何かやらせてほしい」と言うことは、かなり厳しい。そのため、学校との意

見交換は2学期中に行わなければ駄目だと思う。

それぞれの事情を考えて行わなければ駄目だと思う。

そのため、まずは町内会長との意見交換について、そういう方向で了承を得ることができれば、あとは事務局でその辺りはどうか。補足願う。

【小林センター長】

様々な意見をいただき、感謝する。まさに今回は、そういった意見を出していただきたいと思っていた。

資料に記載されていることは「案」であり、確かに、正直、11月・12月にこれだけのことをすることは、かなりタイトだと感じているところである。

また順番についても、最後に「アンケート調査を取る」というかたちになっているが、それを逆にして、アンケート調査の結果をもって話し合いにすることは、確かにベストだという気付きをいただいた。

地域づくり協議会や学校等、先方の事情もあるので、本日いただいた意見を基に、次回の会議で改めて決めることができればと思っている。

【藤本会長】

アンケートと意見交換の順序について、地域協議会の意思を統一しておいたほうがよいと思う。

事前にアンケート調査を実施して、その結果を自分たちも把握した上で町内会長と議論するほうが、より具体的なデータを基に話し合いができるのではないかと、最初の提案だったかと思う。

これについて何か意見等あるか。

【千代委員】

町内会長会は、毎月1回、必ず行われているのか。

【古川 勝夫委員】

南部ではある程度、集まるときもあるが、北部の状況は自分も把握していない。今はコロナ禍の影響もあり、全体で集まることはほとんどない。

そのため、今回町内会長に案内を出しても、どの程度集まるかは分からない。时期的にも、各町内の行事があったり、農家をしている人もいたりするので、11月末辺りがよいと思う。

【藤本会長】

その前にアンケートを実施するとしたら、11月は厳しいかもしれない。

【古川 勝夫委員】

10月にはできないのか。

【藤本会長】

少なくとも、事前にアンケートのお願いをする手順は必要である。

また、本日この場でアンケートの中身を固めなければ、10月の実施は無理である。

【中島委員】

アンケートの10項目の設問は、その範囲でよいと思っている。

アンケートの実施について、地域づくり協議会長・南部・北部といちいち段階を踏むのか、或いは市と連名でもよいと思うのだが、津有区地域協議会長として、町内会長に協力を願う方法もあると思う。

どうしても個々の町内会長の意見までを集約することは難しいと思っている。

【藤本会長】

少なくとも、津有区の町内会長会の丸山会長には内諾を得た上でやらなければいけないと思っている。

各町内会長に打診まではできないが、何か機会があれば丸山会長より一言伝えていただくだけでも違うかと思っている。そのような意味合いである。

いずれにしても、11月に行うためには、次回の協議会でアンケート内容を決定するのでは遅くなってしまう。

【古川 勝夫委員】

津有地区の町内会長会の会長は丸山会長が務めており、北部・南部の両方に副会長がいる。会長に承諾を得られれば、北・南ともにそれで動けると思う。

【古川 仁委員】

自分は藤本会長の話にあったように、今回の町内会長との情報交換会は、パンフレットの企画の話と、前回行ったような地区の問題点等が議題でよいと思う。

アンケートについては、来年度のためのものと考えたと、事前にアンケートを行わなくてもよい気がする。

個人的には、別紙の実施計画（案）の予定どおりでよいと思っている。

藤本会長の考えとしても、この考えに近いのか。

【藤本会長】

自分がどちらかということではなく、今ほど話が出たため、少なくともアンケートを実施することについて、町内会長の了解を得たうえで行わなければならないということである。

また町内会長の了解を得る方法については、町内会長会の会長に話をすれば、副会長は北・南ともにいるため、改まって議題にしなくてもよいと思った。

ただ手順があり、いきなり自分の名前を出して「アンケートを実施してほしい」ということは失礼なことだと思うため、やはり根回しというか、そういったことは必要だと、別紙3の実施計画（案）に記載されているのだと読み取っていた。

それに対して、先ほど中島委員と古川 勝夫委員より、そうではなくて、せっかく会議をするのであれば、何も武器を持たない状態よりも、武器を持った、要するに「このような民意がある」といったことを持って話し合いしたほうがよいのではないかとという提案だったわけである。

私はあくまでも資料に記載されていることを発言しただけである、

逆に「そうではなく、やはりアンケートは後でもよい」ということでもよいと思う。それは委員の意見に従うことだと思っている。最終的に意見が2つに割れた場合には、自分がどちらかに決めなければならないと思う。それは多数決の論理である。

【中島委員】

今ほどの古川 仁委員の話にあった、パンフレットに特化した意見交換会であれば、事前のアンケートはいらないと思う。

ただ、今回の事務局提案である町内会長との情報交換では、パンフレットのことに触れると思うのだが、「津有区の現状・課題・将来について」ということになっている。もし事前にアンケートは実施せずに11月に行うのであれば、パンフレットに特化したものだけで行えばよいと思う。

今は情報交換会を行うということであるため、アンケートは先のほうがよいと思っている。

ただ、パンフレットをやるにしても、もっと突っ込んだものを作らなければ、町内会長の意見はいただけないと思っている。町内会長の意義をどうするかで、やり方は変わってくると思う。

児童生徒との意見交換会等は、来年でも仕方がないと思う。粗々決まってからのほうが、学校の先生もあまり負担がないような気もする。

【藤本会長】

必要があれば、「特にこの中で現状と課題について意見のある町内会長はいるか」と伺い、そこで出てくれば一応吸い取ることも1つの手だと思う。

相馬委員、何か意見等あるか。

【相馬委員】

自分的には、まずはパンフレットを先にまとめたほうがよいと思っている。

そのため、アンケートは後でもよいのかと思っている。

【古川 勝夫委員】

町内会長との情報交換会の目的の中に、「地区アンケートを実施する」とあるため、それであればアンケートを先に行ったほうがよいと思った。

パンフレットの内容を町内会長に訴えたいという話であれば、パンフレットの作製は町内会長会にお願いするしかないため、「このようなかたちでパンフレットを作りたい」というものをしっかりと作っておかなければいけないと思う。そうしなければ、情報交換会を行っても話はまとまらないと思う。

【藤本会長】

パンフレットについて確認だが、これまで自分たちが何を急いでいたかということ、市に予算要求するためのタイムリミットがあったからである。予算を確保するための資料を作成するというところで、それほど細部にわたっての議論はしてこなかった。

具体的な中身については、来年度の作成委員会の中に提言しながら練り上げていくという流れであり、今ここで「完成させる」という話ではなかったと思う。

そのため、今ほどの古川 勝夫委員の発言にあったように、ある程度具体的になっていないと困るという話になってくると、これまで津有区地域協議会としてはそこまで話を詰めていない部分がある。

まだ、子どもだけにするのか、大人だけにするのか、大人と子どもで分けるのか、ということもまだ十分に練り上がっていない。

ただ予算的には、いずれでも作成できるように、予算を確保しなければいけないという話で考えていたと記憶している。

今回の町内会長会とのパンフレットに関する意見交換では、その辺りの話をしている中で、「せっかく作成するのであれば、こんなふうに作ってくれるとありがたい」「こういうことを入れてもらうとよい」といった意見を町内会長からいただきたいという

意味合いだと思う。

配布するのであれば、「5人家族だから、5人全員に配ってほしい」という話もあるかもしれない。そういうことになるのかと思っていた。完成品を持っていくのは、来年になるわけである。その完成品を作るための意見をいただくということで、今まで議論してきた中で、見せられる具体の部分を見せていければと思う。

【千代委員】

こういう話は、町内会長も知っているのか。パンフレットを作ったら、そちらに全部お願いしなければならないわけである。こちらの気持ちを取り入れてもらいたいということはあるのだが、その辺は町内会長に話が通っているのか。

【中島委員】

多分、通っていないと思う。

【千代委員】

そうすると町内会長会としては、いきなり情報交換会を行っても、「何の話なのか」となる可能性もある。もう少し詳しい話が先にあってもよいのではないかという意見が、町内会長から出る可能性もあると思う。その辺はどうなのか。

【小林センター長】

事務局より補足である。

まず、町内会長にアンケートをする話や、意見交換をする話はまだ全然行っていない。それはまだ「案」であるためである。

この場で決まれば、この後事務局で調整することで考えていた。

事務局としては案を作ったわけであり、どうしてもこれでいかなければいけないということもない。

【藤本会長】

自分の私見である。

今、地域協議会の活動が見えてこないということが巷で言われている。そういう意味でいくと、意見交換会を行うことで、自分たちの活動を説明する良いチャンスになると自分は思っている。そのため、具体的なことが決まっていなくても、今こういう構想でいるということについて理解いただき、協力していただける部分は協力してほしいという部分だけでも伝えてもよいのかと、思っている部分がある。

そうしなければ、いつまで経っても「地域協議会は何をしているのか」という話に

なってしまう。

同じように子どもたちに対しても「地域協議会はこう考えている、みんなも意見を教えてほしい」という程度でも自分はよいと思う。それをやらなければ、いつまで経っても、地域の声を生かしていないままに進み、この場に集まった委員だけで話し合っていくような気がする。

そういう意味では、実施する意味はあると思っている。

そこですべて完璧な答えをいただけるわけではなく、第一、予算が通るかどうかの確約もないわけである。作る方向で、予算が取れた際にはこういう方向で考えていく、もし予算が取れなければ意見書というかたちでお願いするという事になっていたと思う。そういうことも含めて、理解いただく場なのかと思っている。

【千代委員】

今の意見に集約されていくとは思うのだが、今までの情報は、町内会長会には全然伝わっていないわけである。

【中島委員】

地域協議会だよりに出ている。

【千代委員】

出ていることは分かっている。だが、どれだけの人が把握しているのか。町内会長会もあまり開かれていない中にあり、失礼ながら、知らないというか、あまり興味を持っていない町内会長も中にはいるのかと思う。

そのためには、地域協議会だよりで出すのもそうだが、やはり、何らかのアクションが事前に出していけば、一緒になった時にも少しは話がしやすいのかと思う。

【藤本会長】

言葉を返すようだが、集まってもらったところで説明をして、初めてアクションになると思う。それ以前に紙を配っても、結局、見ない人は見ない、ということになると思う。これまでも、地域協議会だよりは何回も出ているわけである。それを読んでいる人と、読んでいない人で比べた場合、自分たちは読んでくれている、という前提で物事を進めるしかないと思う。

そういう状況の中で、集まっていたときに、「地域協議会ではこういうこと行っている」と説明をすることが、アクションの第一歩だという気がするのだが、逆にペーパー以外の手だてはあるか。

【千代委員】

地域協議会だよりしかないわけである。

そういった意味でも、再度きちんと説明するというのも1番よいのかと思う。

【藤本会長】

自分たちは月1回の会議しかないわけであり、それ以外で伝える手だてはないわけである。皆で手分けをし、各自の担当エリア決めて町内会長に説明をするといっても、それはできないと思う。

【中島委員】

できない。

【藤本会長】

それであれば、少なくともこのような機を捉えて説明し、少しでも理解を深めていただくことが1番よいのかと思う。

【中島委員】

藤本会長の意見で進めてほしい。

【古川 勝夫委員】

自分もその方向でいったほうがよいと思う。これは本当に雲を掴むような話で、予算がついてからの話である。予算を付けるためにはどうするのか、というところが地域協議会の仕事だと思うため、その方向でいったほうがよいと思う。

【藤本会長】

今の意見を集約すると、日取りは別としても、町内会長との情報交換会で示すメインは、やはり「パンフレット」という理解でよいか。

そして、せっかくであるため、地域協議会がどのような取り組みをしてきて、これからどのようにしようとしているのかということ、町内会長の方々にまずは理解していただく場とする。その上で、やり方について意見をもらう場ということによいか。

【千代委員】

町内会長との情報交換会は賛成であり、ぜひやらなければいけないと思っている。

そして、アンケートについては、相馬委員や古川 勝夫委員の発言にもあったが、話し合いの後で出してもよいということによいか。

【藤本会長】

繰り返すようだが、町内会長会の1番のメインは、地域協議会で作成しようとして

いるパンフレットについて説明し、町内会長会からの意見がもしあれば、意見をいただく場とするということである。

そして最後に、今後地区アンケートも考えており、新たな課題も模索しなければならないため、もし何かあればその場でなくてもよいため、町内会長会で意見を集約していただけるとありがたい、というような言い方になると思う。全く触れずに終わるわけではなく、情報交換会の最後に説明するようなかたちになるのかと思う。

【千代委員】

アンケートは後にするということか。

【藤本会長】

そうである。

【中島委員】

町内会長会の時に、設問はこのようなことを考えていると説明して、実施時期や実施方法をどうしたらよいか聞けばよい。そのため自分たちは心配しなくてよいと思う。

あくまでも町内会長の意見を聞いて、そのように取り計らうということであるため、どうしても年度内にまとめるということとは言わないほうがよいと思っている。

【藤本会長】

齟齬があったようであるため、確認する。

とりあえず、資料記載の実施計画そのものは「案」であるため、本日出た意見を基に、再度、事務局と練り直して提案する。

大前提としては、町内会長に、地域協議会の活動とパンフレットの構想を説明することがメインである。

そしてアンケートについては、最後の方で投げかけて終わる程度とし、もし意見がある人がいれば意見を伺うのだが、それをメインのテーマとはせず、「このようなことを考えているのだが、いつ頃がよいか」くらいの投げかけで終わる。

さらに課題等についても、「津有区の地域活性化の方向性」について、市より地域協議会に考えるよう言われているため、町内会長からの意見も伺いたい、という説明はしなければならないと思うため、そういった文脈で動くという方向の案に修正をするということにしたいと思うのだが、それでよいか。

(よしの声)

では、町内会長との情報交換会については、そのような方向性に少し軌道修正した

いと思う。

次に、児童生徒とのワークショップについて、意見等あるか。

【中島委員】

来年度がよいのではないか。

【藤本会長】

来年度との意見であったが、それでよいか。

(よしの声)

では、児童生徒とのワークショップについては、当初の案から外れるのだが、来年度以降の実施ということとする。

次に、アンケートについてである。

中身や実施計画について、何か意見等あるか。

(発言なし)

「1 目的」はよいと思う。

「2 対象」は世帯に対してということで、個人ではない。

「3 回答方法」については、QRコードによるウェブでの回答と、アンケート用紙での2つの方法のどちらでもよいこととする。

「4 実施期間」については、実施計画(案)では「12月頃」としていたのだが、先ほどの話で、町内会長の意見を聞いてから改めて判断したいと思う。

「5 設問」については、別紙③記載の10問が案として出ているのだが、どうか。

【中島委員】

よいと思う。

【小林センター長】

事務局より補足である。

設問をなぜこの10問にしたかということ、実は中郷区で同じ設問でアンケートをした実績があるためである。

アンケート取った際、比較がなければ、なかなか判断ができない。つまり、比較調査をするために、中郷区と同じ設問にしてあるということ、その点はこの設問のメリットがあるかと思う。比較できるため、津有区の特徴が出やすいということである。

ただそれは1つの考えであり、もっと詳しく聞きたいことや、課題としてあげたいこと等があれば、それを加える・削ることも可能かと思っている。

やはり、アンケートを行う際には、慎重にやるべきだと思っている。ただアンケートを取った・取れば何か分かる、ということは、自分の経験的にも危険だと思っている。何か「これが見たい」というものがあって実施したほうが、活かしやすいと思う。

ぜひ、津有区の特徴を出す・理解するためにこのような設問が欲しいというものがあれば、意見をいただきたいと思っている。

【藤本会長】

事務局より補足があったが、何か意見等あるか。

(発言なし)

津有区の傾向を掴むということになると、ある程度、基準となるものがあるとよいということである。基準として、中郷区でアンケートを実施しているため、そのアンケート結果と比較することで、中郷区と津有区の考え方の共通性や異なる点が分かるという事務局の説明であったが、津有区でもそれで行うということではどうか。

【中島委員】

設問(1)に記載されている、「津有区での生活時間」の意味を教えてください。

【小林センター長】

例えば、津有区で自営業をしている人であれば、朝から晩までという計算になり、津有区以外で勤務等している場合には、家にいる時の時間ということになる。そのように捉えている。

ただ、中郷区でどのような定義で「生活時間」を決めたのかについて、アンケート実施前に今一度確認したいと思っている。

注釈書き等で、定義をしっかりと記載するような工夫はしたいと思っている。

【千代委員】

回答する人によって傾向が異なってくると思う。

例えば、息子が答える世帯と、自分のような年寄りが答える世帯では回答が違ってくる。

【藤本会長】

確かに回答する人によって異なってくると思う。世帯主が回答すると、世帯主の傾向しか分からなくなる。

そのため、全人口に対してアンケートを出すか否かということだと思う。

中郷区でどのようにしてターゲットにしたのか、回答対象をどうしたのか、事務局

は確認してほしい。

【小林センター長】

実は分かっている。

中郷区で行ったアンケートは、中学校以上全員にアンケートに答えてもらうという全数調査であった。すごいことである。

【千代委員】

家族が5人いれば、5人全員が回答するということか。

【小林センター長】

そのような設計で実施した。

ただ、それをそのまま津有区に当てはめられるのかということ、難しいと思う。そういったことも確認したかった。

ただ、設問の中に年代を記載するため、傾向は出ると思う。

20代の回答者はこれくらい、80代の回答者はこれくらい、ということで、標本数は少ないかもしれないのだが、生活時間の傾向は出るのかと思っている。

【藤本会長】

アンケートの回答用紙をどう作るかだと思う。

6人家族の場合、6人分を回答できるように「○・×」が付けられるようにしておく方法もあると思う。

そうすることができれば、1枚の回答用紙であっても、6枚分のアンケートになる。

QRコードであれば、1人1人が回答すればよいわけである。

その辺りを工夫してほしい。

ただ問題なのは、世帯主だけを調査してしまうと、全体の傾向は読み取れないため、やはりやる以上は全数調査という方向で一応行くしかないのかと思う。あとは各町内会長にいかに迷惑をかけずに回答用紙を回収するかという工夫だと思う。

集約は誰が行うのか。

【小林センター長】

集約はすべて事務局で行う。町内会長はアンケートの回収の手間だけである。

津有区地域協議会としても、どういう人を対象に調査するのかについて、これから決めていかなければならないと思う。本日は本当に頭出しだと思っている。

本日いただいた意見を踏まえて、次の協議会までに案を作り直し、最終的によいア

ンケートができればよいと思っている。

【藤本会長】

まだ細かいところまでは決まっていない。

何のためにアンケートをするのかというと、津有区の地域活性化の方向性を探るために、地域住民がどういう考えであるのかということを集約することが目的であり、身元調査をするということではない。

ただし、高齢者と若年層では考え方が違うと思うため、年齢差によって考え方の違いがあることも把握しなければいけないと思う。

そういう部分があるとすれば、全数調査の方向になっていくのかと思う。ただそれは「可能な範囲で」というしかない。あとは出てきた数で見た時に、年代を見れば傾向が分かる。

とりあえず「アンケートをする」「大体 10 項目でやる」ということまでの決定でよいか。

【中島委員】

設問の (1) は、「年代」だけにしてほしい。

「家族構成」や「生活時間」はやめてほしい。それ以外は問題ない。

【藤本会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

いただいた意見を基に、次回以降の準備を進めていきたいと思う。

以上で次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」を終了する。

最後に次第 3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

- ・ 次回の協議会日時：10 月 31 日（月） 午後 6 時 30 分から
- ・ 会場：津有地区公民館 大会議室
- ・ 内容：自主的審議

その他、何かあるか。

(発言なし)

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。